

# 令和七年度 給付特待チャレンジ入試（十二月十五日） 入学試験問題

## 国語

### （注意事項）

1. 解答は、すべて別紙の解答用紙（マークシート）に記入してください。
2. 試験開始後、解答用紙（マークシート）の所定欄に正しく氏名と受験番号を記入し、受験番号のマークもしてください。
3. 筆記用具は、HBの濃さの鉛筆、またはシャープペンシルを使用してください。ボールペンやサインペン、色の薄い鉛筆は使わないでください。万一使用した場合には、正常に採点できないことがあります。
4. 試験開始後、解答用紙（マークシート）の注意事項をよく読んでください。

一 次の話文を読み、後の設問に答えなさい。

雑誌『文藝春秋』一九七一年三月号誌上で行われた対談。

司馬遼太郎（一九二三～一九九六）。作家。大阪府大阪市生まれ。

桑原武夫（一九〇四～一九八八）。フランス文学者、評論家。福井県敦賀市生まれ。京都帝国大学文学部仏文科卒。東北帝国大学助教授などを経て、四八年から六八年まで京都大学人文科学研究所教授、五九年～六三年、同所長。

司馬 地方に住んでいる人は、いままで、標準語を使えないということでも劣等感がありました。最近はずっとひらき直って、多少の自信を持つようになったのではないだろうか。まあ、標準語で話すと感情のディテールが表現できない。ですから標準語で話をする人が、そらぞらしく見えてしょうがない（笑）。あの人はあいうことをいつてるが、嘘じゃないか（笑）。東京にも下町言葉というちゃんとした感情表現力のあることばがありますが、新標準語一点張りて生活をしている場合、問題が起きますね。

話し言葉は自分の感情のニュアンスを表すべきものののに、標準語では論理性だけが厳しい。ですから、生きるとか死ぬとかの問題に直面すると死ぬほうを選ばざるを得ない。生きるといことは、非常に複雑な現実との妥協ですし、そして複雑な現実のほうが、人生にとって大事だし厳然たるリアリティをふくんでいて、大切だろうと思うのですが、しかし純理論的に生きるか死ぬかをつきつめた場合、妙なことに死ぬほうが正しいということになる。そんなアホなこととはおもわない。生か死かを土語、例えば東北弁で考えていれば、論理的には曖昧ですが、感情的には「女房子がいるべしや」とかなんかで済んでしまう。なにが済むのかわからないけど（笑）。

桑原 なるほど。

司馬 このあいだ、カセットで東条英機の演説をきいて、あらためて驚きましたね。あれは機械がものをいつているみたいで、生活をしている人間のおいというものがまったくありませんね。あの人は学習院初等科の出身だそうですから、きちんとした標準語生活者でしょう。戦争中、あの人の大演説をきいて、そらぞしくなつて、感想はといえば「アホかいな」で終い（笑）。

ああいうことは、東条さんという人の精神のまずしさより、あの人の日本語に関係があるような気がする。ああいう東条語で議論をしてゆけば、現実の軍事情勢がどうなっているか、インパール<sup>(注2)</sup>へ大軍を送るべきだというような結果になるような感じがします。ごく粗末な軍事常識をもっている、それは大量キミンの戦法だということがわかると思うのですけれど、東条さんがあの薄っぺらな日本語で喋<sup>しゃべ</sup>っていくと、どうしてもあの作戦をやらざるをえないようなかたちになってゆくような気がします。東条さんは陸相を兼ねていますから、インパール作戦決定のハンコを押すのですが、そのハンコをもらいに軍事課長が首相官邸にゆく。東条さんは浴室にいる。課長がガラスごしに用件をいうと、矢つぎばやに五カ条の質問をして、一つホキユウはどうか、二つ作戦計画はケンジツか、三つ兵力は十分か、などとまるで暗記物を暗誦<sup>あんしゅう</sup>するようにツルツル喋って、その返事が、大丈夫であります、という「よし」といってそれであの大作戦がすべりだしたそうで（笑）、おどろくべきことですが、まあ東条さんの頭がそこまで悪いとは思えないから、やはり思考用の言語がツルツルして、紋切り型になっていたのではないかと思ったりします。こじつけかもしれませんけど。ともかくあの調子の演説、いまでもありますけど、蔭でひとが「アホかいな」と……。

桑原　いうとる、いうとる（笑）。などというひやかし方もありますね。……ところで、ここで反問すると、現代の標準語は、あなたのおっしゃるほど、それほど論理的でしょうか。

司馬　まあ、これは地方語との比較の問題で、<sup>a</sup>ゲンミツには問題がありますね。

桑原　あなたやわたしが関西弁でしゃべり、あるいは東北の人がズーズー弁でしゃべる場合、その論理性ということとはもともと数量では計れませんが、現実には数量的にはいえないがわかりやすくするために、かりに六〇パーセントの論理性を持っているとしますね。それに比べていまの標準日本語には七〇パーセントの論理性がある。それはいえるかも知れません。

しかし、フランス語やドイツ語の持つ論理性に比べて、標準日本語のほうが論理的であるかどうかは問題ですね。<sup>B</sup>そこでもう一つ反転して、論理的であるかないかを何によって考えるかというと、普通アリストテレス以来の西洋の論理学によってでしょう。ところが、もう一つ、感情の論理学という問題もありますね。これはフランスの心理学者が使った言葉ですが、形式論理から見ると非合理的でも、心理的には感情を納得させる論理もあるわけで、感情の論理学によれば、場合によっては、日本語とフランス語は論理性が同じであるかも知れない。

司馬　実をいいますと、いまの発言は、わたしが多年桑原先生を観察しての結論なんです（笑）。大変にソクブツ<sup>b</sup>的で恐れいり

ますが、先生は問題を論じていかれるのには標準語をお使いになる。が、問題が非常に微妙なところに来たり、ご自分の論理が次の結論にまで到達しない場合、急に開きなあって、それでやなあ、そうなりまっせ、と上方弁かみがたを使われる（笑）。あれは何やろかと……。

桑原 批判していたわけだ（笑）。

司馬<sup>C</sup> いや、批判じゃなくて、これはやはり標準日本語がまだ不自由で足りないところがあるせいだろうと思っています（笑）。

喋り言葉としての標準語は論理的であるにしても、おっしゃるように百パーセントの論理性はない。そこで、感情論理学を背負っている京都弁で栓をしよう。

桑原 ぼくは標準語を使っているが、意をつくせないときはたしかにありますね。そこで思うんですが、社会科学などの論文に、もつとゾクゴcを使って、「さよか」とか……（笑）。

司馬 「そうだったしやる」とか……。

桑原 「たれ流し、よういわんわ」という言葉が入るようになればおもしろいと思うんですがね（笑）。

司馬 そうですね。

桑原 わたし、この前北海道に行って、地方文化の話をしたときに、少し身もふたもないことをいいました。<sup>D</sup>いい音楽を聴き、いい小説を読み、うまいものを食う。それはそれ自体結構なことだが、それがその地方の文化をコウジョウdさせることになるのだろ  
うか。現代日本は好むと好まざるとにかかわらず中央志向的な大衆社会になっている。だから、東京とはちがう地方文化、例えば北海道や鹿児島で独特の地方文化を持つのは無理至難なものではないか。それを持ちうるのは、その地方の人々が方言で喋ることを恥としない、あえて誇りと思わなくても、少なくとも、恥としないところにしか地方文化はない。それがわたしの地方文化の定義です、といったんです。

そうすると、地方文化がまだあるのは上方だけです。わたしは場合によれば京都弁を喋る。大阪の作家はみんな日常大阪弁を使う。しかし、例えば名古屋では、これは名古屋の人が聞いたら怒るかもしれないけれど、「そうきやあも」などという名古屋弁をもう使わなくなりましたね。恥じている。東北地方の人にもそれがいえます。そこへ、片方からラジオやテレビでローラーをかけていますからね。地方の言葉を捨てて地方文化を守るのは不可能だと思っんです。

司馬 テレビといえば、いろんな流行語がテレビからうまれますね、「ハツパフミ注3」とか「ハヤシ注4もあるでよ」とか。ああいう

変な言葉は、標準語が感情表現に百パーセント向かないので、つまり土語代替りの役割をケイビながら果たしているのではないでしようか。

桑原

それらの言葉は、かつ結びかつ消えだから型ができない。つまり、日本文化の特色は変化が急ピッチで激しいということです。言葉でも『万葉集』からいままでの変化は大変なものです。例えば、明治中期の中江兆民などの本を、いまの大学出た人は読めないでしょう。森鷗外<sup>F</sup>でも読みづらい。

司馬

むずかしいでしょうね。

桑原

フランスでももちろん言葉は変わるけれど、ここ三百年ほどは日本ほどの変動はありませんね。十七世紀にアカデミー・フランセーズが、使っている言葉と悪い言葉を整理した。その整理のためにある意味ではフランス語のボキャブラリー（語彙）が少なくなつて、溢れるような豊かさがなくなつた。その代わり、論理的で純粋なラシーヌ<sup>(注6)</sup>が出てくる基礎となつた。フランス語は安定しているので日本語より型があるわけです。しかし、かなり前のことですが、フランスの雑誌を読んでもいたらおもしろい記事があつた。フランス語は、日本語やドイツ語と違って新しい単語をあまり造りませんで、昔からある言葉にいろんな意味を持たせるんです。例えば *vie* <sup>ヴィー</sup> という単語があります。これは生命という意味です。が、*La vie est chère* <sup>ラ・ヴィー・エ・シェール</sup> といえは物価が高い、物価という意味もある。そのほか宗教的生などともいうし、もちろん人生という意味もある。*Vie de* <sup>ヴィー・ド</sup> 何々というとなんか伝。そういう具合に大変豊かな感じですが、その代わり、一つ一つの言葉が機械的機能的に働かない。

これは専門ではないのでよくわかりませんが、その雑誌に書いてあつた通りにいえば、フランス語は保守的で、新造語もしないので、理論物理学だとか生態学とか学問の新しい領域には必ずしも適切でない、というのです。日本文化は雑種文化でしょう。純粋性においては欠けるが、生命力は強い、日本語は、そういう強みをもっているかもしれません。

（司馬遼太郎・桑原武夫「人工日本語」の功罪」による）

(注1) 東条英機……一八八四～一九四八。日本の陸軍軍人、政治家。一九四一年内閣総理大臣に就任。在任中に太平洋戦争が開戦。一九四四年には陸軍大臣と参謀総長も兼任した。日本降伏後、東京裁判でA級戦犯およびB・C級戦犯として起訴され、巣鴨拘留所で死刑執行された。

(注2) インパール……インパール作戦。一九四四年に第二次世界大戦のビルマ戦線において大日本帝国陸軍とインド国民軍によって実行された軍事作戦。イギリス領インドから中華民国への道を断つことと、インド独立運動を促すことを目的に、インド北東部の都市インパールを攻略すべく立案・実行されたが、多くの戦死者・戦病死者を出して大敗した。無謀な作戦の代名詞として使われることが多い。

(注3) ハップフミフミ……一九六九年に万年筆のコマーシャルで使われたナンセンスなフレーズ。

(注4) ハヤシもあるでよ……一九六九年にレトルトカレーのコマーシャルで使われ、流行語になったフレーズ。

(注5) アカデミー・フランセーズ……フランスの国立学術団体。一六三五年に設立されて現在まで続く。フランス語の質を維持することを目的に、語彙や文法を整備し、アカデミー辞書を編纂。一六九四年の初版以来、現在まで九回の改版を重ねている。

(注6) ラシーヌ……ジャン・バティスト・ラシーヌ（一六三九～一六九九）。フランス古典主義を代表する悲劇作家。

※問題作成上の都合により、文章の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部A「論理的には曖昧ですが」について、そう述べる理由として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 1。

- 1 標準語の話し言葉は、感情のニュアンスだけでなく論理性も厳しく含んでいるから。
- 2 生きるということは、論理的な思考を貫くよりも、猥雑な現実と妥協するものだから。
- 3 生きるとか死ぬとかの問題に直面すると、論理的には死ぬ方を選ばざるを得ないから。
- 4 方言を使って導き出された選択が、論理的な根拠に基づいているとは言い難いから。
- 5 東北弁は、生きるとか死ぬとかを考えるための言葉がないので、論理的な議論に向かないから。

問二 傍線部B「そこでもう一つ反転して」について、桑原は、どのように議論を運んでいるのか、最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 2。

- 1 司馬の議論の趣旨がよく理解できないため、二度にわたって探りを入れている。
- 2 司馬の主張に共感しながら、西洋における同様の事例を挙げている。
- 3 司馬の考えに、はじめは異をと考えたが、同意できる点もあることを示している。
- 4 司馬の議論を無視して、自分のフィールドに話を持っていくとしている。
- 5 司馬の考えの枠組みを尊重しつつ、自分の枠組みへとシフトさせている。

問三 傍線部C「いや、批判じゃなくて」について、どのような批判ではないという意味か、最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 3。

- 1 学術的な場にふさわしくない言葉遣いはよくないという批判
- 2 標準日本語を上手く使いこなせていないという批判
- 3 論理的な議論をしていないという批判
- 4 桑原の話す日本語は感情表現が足りないという批判
- 5 間違った学説を話しているという批判

問四 傍線部D「少し身もふたもないことをいいました」について、その意味について最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4。

- 1 北海道や鹿児島の方は、東京の文化を真似したところで東京人になることはできない。
- 2 北海道の人が中央志向でいる限り、北海道独自の文化をもつことは無理至難である。
- 3 北海道や鹿児島の方は、もっと誇りをもって自分たちの方言を使うべきである。
- 4 北海道や鹿児島では、東京にはない独自の地方文化を育てる必要がある。
- 5 北海道の人が、いい音楽を聴き、いい小説を読み、美味しいものを食べるのはいいことである。



問五 傍線部E「かつ結びかつ消え」は、ある古典作品の文章「よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとゞまるこ

となし」(底本・岩波文庫1989)を踏まえた表現だと考えられる。その作品名として最も適切なものを、次の1～5の中から

一つ選び、マークしなさい。解答番号は 。

1 『万葉集』

2 『枕草子』

3 『源氏物語』

4 『方丈記』

5 『徒然草』

問六 傍線部F「でも」について、次のア～オの中で、文法的に本文と同じ品詞のものには1を、違うものには2を、それぞれマ

ークしなさい。解答番号は  。

ア 埼玉でも食べられるたこ焼き

イ 素人が相手でも容赦しない

ウ 子どもでも登れる高尾山

エ 休んでも大丈夫

オ お茶でも飲みながら話そう



問七 次のア～オについて、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2を、それぞれマークしなさい。解答番号は

11      15。

- ア 日本語の標準語は、感情を細やかに表現することが難しい。  
 イ 標準日本語は地方語よりも論理的にできていない。  
 ウ 論理的であるかないかの基準は、一つとは限らない。  
 エ 日本語はフランス語に比べて変化が激しい。  
 オ 日本語はフランス語よりも語彙が豊富で表現豊かである。

問八 二重傍線部 a～e を漢字表記に改めた場合、それと同じ漢字を用いるものを、それぞれ次の各群の1～5の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は 16      20。

a      ゲンミツ

- |   |                     |
|---|---------------------|
| 1 | 無料のオンゲン素材を使う        |
| 2 | 発芽ゲンマイを食べる          |
| 3 | モーツァルトのゲンガク四重奏曲を聴く  |
| 4 | クーデターによりカイゲンレイが布かれる |
| 5 | フェリーのゲンソクに寄せる       |

b      ソクブツ

- |   |               |
|---|---------------|
| 1 | 書類をソクタツで送る    |
| 2 | 親のソクバクを嫌う     |
| 3 | ムビヨウソクサイを願う   |
| 4 | 家賃の支払いをサイソクする |
| 5 | 高僧のソクシンブツを拝む  |

c  
ゾクゴ

1 部屋の中はゾクアクな趣味で満ちている  
2 カゾクのような他人  
3 ローマ帝国のゾクリヨウ  
4 漫画のゾクヘンを読むのが楽しみ  
5 俺はカイゾク王になるぞ

d  
コウジヨウ

1 半導体のコウジヨウが不足している  
2 日頃よりのゴコウジヨウに感謝申し上げます  
3 コウジヨウシンが足りないとしかられた  
4 君の逃げコウジヨウは聞き飽きた  
5 コウジヨウのための投石器が発明された

e  
ケイビ

1 夜間ケイビのアルバイトに応募した  
2 風邪をひいてビネツがつづいている  
3 火曜日はビヨウインの定休日  
4 話がビロウに流れて申し訳ありません  
5 サンビをさわめる事故現場

〔二〕次は、アメリカの哲学者ジョン・ロールズ（一九二一―二〇〇二）の著書『正義論』について述べた文章である。これを読み、後の設問に答えなさい。

それでは『正義論』の解説に入っていきます。まずはじめに取り組まなければならないことは、この本の主題となる「正義」とはいったい何なのか、という最も基本的なところを明確にすることです。というのも、正義にもいろいろな意味があるからです。たとえば、悪いことをした人間を罰することが正義の役割だと言われることがあります。また、弱い立場におかれた人を助けることを正義と呼ぶこともあります。いずれにせよ「正義のヒーロー」をイメージしたときに浮かぶようなものですね。あるいは、正義という言葉が「不正をしない」という意味で捉えるならば、ちゃんとルールを守り、ズルをしないという日常的な営みもまた、正義のイメージに近いところがあるかもしれません。

しかしながらロールズが論じる正義は、そういった個人の行為に関するものではありません。ロールズが検討するのは、社会を支える仕組みが正しいものであること、という意味での「正義」です。一言で言えば「社会正義」こそが『正義論』の主題です。『正義論』の出だし、いちばん最初の箇所は次のように書かれています。

真理が思想の体系にとって第一の徳であるように、正義は社会の諸制度がまずもって発揮すべき効能である。どれほど優美で無駄のない理論であろうとも、もしそれが真理に反しているのなら、棄却し修正せねばならない。それと同じように、どれだけ効率的でうまく編成されている法や制度であろうとも、もしそれらが正義に反するのであれば、改革し撤廃せねばならない。（第一節、六頁）

（１）正義とは社会の諸制度が持つ特徴であること、それも第一に満たされなければならない特徴であることが、高らかに述べられています。個人の好みもあるかもしれませんが、この『正義論』冒頭の文章は、知的なコウケツさ<sup>a</sup>にあふれた魅力的な文章だと、筆者は読むたびにいつも思います。

この文章に明らかなように、『正義論』の主題は、個人の行為を正しいとか不正であるとか判断する、その基準を見出すことではありません。（２）個人の行為について正しいかどうかが論じられる場面は日々の生活の中で多くありますが、それらはロールズが

念頭にしている正義とは別のものです。(3) ロールズの主題はあくまで社会正義、すなわち社会のもろもろの仕組みが正しいとか不正であるとか判断する、その基準です。

右に引用したロールズの文章について、一つ注意しておきたいことがあります。右の文章では正義が社会にとつてとても大事なものである、ということが述べられているわけですが、ここでは決して何か特定の正義の形が示されているわけではありません。(4) これから詳しく見ていきますが、ロールズは社会正義についてさまざまな考え方があり、私たちが生きる社会の前提として受け入れています。(5) 多様な考え方はあるものの少なくとも何らかの正義は必要である、社会にとって正義はなくてはならないものだ、ということを、議論の初めにロールズは確認しているのです。

ロールズの主題が社会正義にあるということを確認しただけでは、まだまだ話は曖昧です。社会のあり方が正しいものであるとは、いったいどういうことでしょうか。これについて考えるためには、まず社会とはいかなるものか、ということを確認しなければなりません。

ロールズによれば社会とは、私たちが共に生きること、お互いによりいっそう豊かになるという、そのような試みのことです。そして、そのような試みであるからこそ、正義が必要になる、とロールズは考えます。

社会とは〈相互の相対的利益(まじな暮らし向き)を目指す、協働の冒険的企て〉<sup>b</sup>のただけでも、そこには利害の一致だけではなく衝突もケンチョに見られるのが通例である。社会的な協働によって、各人が独力でひとり暮らしを続けるのと比べて、まじな生活が可能となるがゆえに、利害の一致が成立する。逆に利害の衝突が起るわけは、こう説明できる——人びとが各自の目的を [A] するにあたって、相互 [B] がもたらす [C] の取り分がより大きくなることを [D] するため、[C] の [E] がどれくらいの大きさになるかに関して、無関心ではいられないからである、と。そこでこの相対的利益の分割を規定する複数の社会的な制度編成のどれを選ぶかに際して、さらに適正な分配上の取り分に関する合意事項を確定するために、一組の原理が必要となってくる。こうした原理こそ、社会正義の諸原理にはかならない。(第一節、七頁)

少し長くて飲み込みづらかったかもしれませんが、ここでロールズが言っているのは次のようなことです。私たち人間は、共に暮

らすことによって、一人で生きるよりも豊かに生きることができ。しかし、そうして協力することで得られる豊かさは、人々のあいだで必ずしも平等に分けられるわけではない。なぜなら誰しも自分の取り分を多くしたいと考えるからである。それゆえ、たとえば奴隷制や身分制のように、共同生活から得られる利益を一部の人が一方的に取り上げるような社会になってしまうことも珍しくない。これを防ぐことが社会正義に求められることである。そして、社会正義を実際にルール化するのが「正義の原理」である。

ここでロールズが論じているのは、社会というものは本質的に正義を必要とする、ということ。言い換えれば社会正義は、社会が何かしらのトラブルでうまくいっていないから求められるものではなく、社会が社会である限り常に問題になるものです。協力することによる豊かさ（およびそのための負担）が人々のあいだでどう割り振られるかについて、正義にかなったサイハイが常に求められるのです。

それゆえ社会は「正義の原理」を必要とする、と述べられているわけですが、この正義の原理とは具体的に何を規定するものなのでしょうか。これが次の疑問です。ロールズは正義の原理の役割について、端的に次のように述べています。

それらの原理が、社会の基礎的諸制度における権利と義務との割り当て方を規定するとともに、社会的な協働がもたらす便益と負担との適切な分配を定めるのである。（同前）

権利と義務について、誰がどのような権利を有し誰がどれだけの義務を負うのか、また便益と負担について、誰がどのような便益を得て誰がどれだけの負担を負うのか、それを決定するのが正義の原理の役割なのだ、と、ロールズは述べています。この原理が適切に定められることによって、社会のあり方は、正義にかなったものになるということ。です。

前ページに引用した文章の中でロールズは、社会とは「協働の冒険的企て」である、と述べていますが、これはとても印象的なフレーズです。まず「協働」という部分は、社会というものが、人々の協力によって成り立っているものであることを表しています。次の「冒険的企て」という部分は、「協働」の利益と負担をどのように分け合うかについて、社会は常に F 状態にあることを表しています。

とはいえ、そのような困難はあっても、私たちが社会を形成することで豊かさを手にすることができるのは間違いありません。必ずしも参加者全員が対等な利益を得られるとは限らないけれども、挑戦してみる価値はある、柔らかく言えば、社会というチャレン

ジには分裂と支配のリスクがあるけれども大きな生活向上のリターンも見込まれるというわけです。この意味で社会が「冒険的企て」だというのは、なるほどたしかにその通りだと筆者は思います（なお補正しておきますと、ここで「冒険的企て」と訳されているものの言葉は *venture* すなわちリスク覚悟で挑戦していく「ベンチャー企業」のベンチャーと同じ言葉です）。そして、そのような企てのリスクの部分<sup>d</sup>をチョウテイするのが、正義の役目となります。繰り返しになりますが、社会が協働の（完全無欠のプロジェクトではなく）冒険的な企てであるからこそ、正義が必要となるのです。

社会とは人々が共同で取り組む一つの試み、すなわち「協働の冒険的企て」である、とするロールズの考え方に、『正義論』を理解する上での重要なポイントを見て取ることができます。それは、社会というものは根本的に相互依存的なものである、という見方です。このロールズの社会観は非常に大切なところですので、現代の日本における例を挙げて詳しく見ていきたいと思います。

私たちの社会においては、人によって、おかれた状況はさまざまです。そして異なる境遇にある人々は、それぞれに意識してはいなくても、お互いに協力して（言い換えれば依存して）生活しています。たとえばスーパーマーケットで食品を購入する際にレジをうつ人、それらの食品を流通させるためにトラックを運転する人、そもそもその食品を生産した人。また、電気やガスのキョウキウ<sup>e</sup>を|ウを支えている人、ゴミを回収する人々、その焼却処理に携わる人。そういった人々がいなければ、誰も、生活を維持することはできません。

社会の中で恵まれた境遇にいる人、たとえば年収や社会的地位が高い人は、同じような境遇にいる人と付き合うことが多いでしょう。職場の同僚はもちろん、趣味を同じくする友人も、同じマンションに住む隣人も、みな恵まれた人々であるかもしれません。だとすれば、恵まれた人々はそのような人々だけからなる世界に生きており、恵まれた境遇にない人々は別の世界に生きているのだと考えてしまつてよいでしょうか。これはまったくの誤りです。そう考えるのが道徳的に望ましくないという話ではなく、事実認識として誤っています。なぜなら恵まれた人々も、右に見たようにさまざまな場面で、そうではない人々の助けを得て生きているからです。

このような相互依存性を誰の目にも明らかにしたのが、二〇二〇年に起こった新型コロナウイルスのパンデミックに際し、広く注目を集めた「<sup>G</sup>エッセンシャルワーカー」という言葉です。私たちの生活にとって必要不可欠な職業に従事する人々を指す言葉ですが、同時にそのような人々が必ずしも高い収入を得ているわけではないことも示唆しています（典型的には介護や保育といった福祉関連

の仕事の従事者が挙げられます)。そのような人々は私たちみんなの生活を支えているにもかかわらず、しばしば収入が低く、また厳しい労働環境におかれていることが、社会問題として捉えられるようになりました。

なぜお互いの生活を共に支え合っているのに、恵まれた境遇にいる人とそうでない人がいるのでしょうか。それは、お互いに協力することで生まれた社会の豊かさが、人々のあいだで対等に分けられているわけではないからです。その豊かさの取り分に差があるからです。それゆえに、協力して努力することによって社会が発展しているにもかかわらず、その負担が小さい割に利益は大きい人と、その負担が大きい割に利益は小さい人とが生まれてしまっています。これはまさしく、ロールズが問題視した、社会のあり方が正義にかなっていない状況そのものだと言えるでしょう。

同様の偏りは、労働の場面に限られません。二〇一一年の東日本大震災に伴う福島原発事故に際して、原発は福島にあるのに、その電力が東京に送られているということに一定の注目が集まりました。

H これもやはり、共に生きる上で利益と負担の割り当てが一方的となっている事例と言えます。このような偏りに対しては、利益と負担の配分を是正すること、また、負担を一部の人々に押し付けなければ運用できない場合には運用そのものをやめることが求められるでしょう。

私たちはお互いに支え合って生きており、それによって豊かさを享受しています。言い換えれば、私たちは他者に依存しなければ豊かに生きられません。それにもかかわらず、その豊かさをめぐる利益と負担が適切に割り振られていないとき、私たちはその社会の仕組みを「不正だ」と考えます。このような不正のない社会を実現することが、社会正義の意味であり、そしてロールズが『正義論』で探究した課題なのです。

(玉手慎太郎『今を生きる思想 ジョン・ロールズ 誰もが「生きづらくない社会」へ』による)

※問題作成上の都合により、文章の一部に手を加えています。



問一 本文には次の一文が脱落している。文中の(1)～(5)のどこに入れるのが最も適切か、マークしなさい。解答番号は

21。

ここでロールズが述べているのはあくまで、社会のもろもろの仕組みは、とにかく何かしらの正義にかなうものでなければならぬ、ということだけのことです。

問二 空欄 A 〓 E に入る語句として最も適切なものを、それぞれ次の1～5の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答

番号は 22 〓 26。

- 1 選好    2 分配    3 連携    4 追求    5 便益

問三 空欄 F に入る語句として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 27。

- 1 甲論乙駁の    2 疑心暗鬼の    3 千思万考の    4 心血を注ぐ    5 火種を抱えた

問四 傍線部 G「エッセンシャルワーカー」について述べたものとして適切でないものを、次の1～5の中から一つ選び、マークし

なさい。解答番号は 28。

- 1 社会において必要不可欠な職業の人が必ずしも高い収入を得ているわけではないことを説明するために例示されている。
- 2 介護や保育等の福祉関係の仕事など、厳しい労働環境に見合った利益を得ている人々を指す言葉である。
- 3 社会の発展のための負担が大きい割には利益が小さい人の例として取り上げられている。
- 4 新型コロナウイルスのパンデミックの際に、みんなの生活を支えている人々として注目された。
- 5 社会的に恵まれた人も、そうでない人々の助けを得て生きていることを明白にした言葉である。

問五

空欄

H

に入る内容として最も適切なものを、次の1～5の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 29。

- 1 発電による豊かさを享受する人々が、その発電のリスクを負っている人々によって、強く非難されたわけです。
- 2 発電による豊かさを享受する人々は、その発電のリスクを負っている人々がいることを、知らなかったわけです。
- 3 発電による豊かさを享受する人々と、その発電のリスクを負っている人々とは、一致していなかったわけです。
- 4 発電による豊かさを享受する人々と、その発電のリスクを負っている人々が、同じ利益を得ていたわけです。
- 5 発電による豊かさを享受する人々と、その発電のリスクを負っている人々の間にも、支え合いがあったわけです。

問六

次のア～オについて、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2を、それぞれマークしなさい。解答番号は

30

34

ア 人間は基本的に共に暮らすことで豊かに生きることを求めるが、奴隷制や身分制の出現のような問題が起きた時には、社会正義の考え方が必要になるとロールズは言っている。

イ ロールズは、社会のことを「venture」という言葉を使って表現しているように、分裂と支配のリスクを乗り越えていくという挑戦が必要なものだと考えている。

ウ 社会の中で恵まれた境遇にある人々と恵まれた境遇にない人々が別の世界に生きているという認識は、仮に事実がそうであつたとしても道徳的に許されるものではない。

エ 社会的な協働がもたらす便益と負担の不適切な分配を不正と捉え、このような不正のない社会を実現することが、『正義論』でロールズが探究した課題である。

オ ロールズの言う正義は、ちゃんとルールを守りズルをしないなど、社会を構成する一人一人が、自分の行為を正しいとか不正であるとか判断する基準となるものである。

問七 二重傍線部 a～e を漢字表記に改めた場合、それと同じ漢字を用いるものを、それぞれ次の各群の 1～5 の中から一つずつ選  
び、マークしなさい。解答番号は 35 ～ 39。

a コウケツ

- |   |                      |
|---|----------------------|
| 1 | 自らのボケツを掘る愚かな行為       |
| 2 | 彼女のケツバクを疑うに足る理由がある   |
| 3 | 同時代の漫画家の中でもケツシュツした存在 |
| 4 | 国民のケツゼイを無駄にしない政治     |
| 5 | 冬になると湖面がトウケツする       |

b ケンチヨ

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 1 | 「小生」とケンシヨウを用いる    |
| 2 | 未来は若者のソウケンにかかっている |
| 3 | 当選のアンゼンケンに入る      |
| 4 | ケンビキヨウの発明で科学が進歩した |
| 5 | 社員のチュウケンの立場で仕事をする |

c サイハイ

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 1 | 見事な演奏で観客のカッサイを浴びた |
| 2 | 利益を上げるため粉骨サイシンする  |
| 3 | 独特な作風で文学史にイサイを放つ  |
| 4 | サイゲンなく続く話を聞く      |
| 5 | 赤字コクサイを発行する       |

d  
チヨウテイ

- |    |    |     |     |     |
|----|----|-----|-----|-----|
| 5  | 4  | 3   | 2   | 1   |
| 二  | 港に | 購入者 | 主要な | 収穫量 |
| 国  | テイ | 者に  | 業務で | が年々 |
| 間  | ハク | 商品  | 他社と | テイ  |
| の  | して | 券を  | テイ  | ゲン  |
| 条  | いる | シン  | ケイ  | してい |
| 約  | 船  | テイ  | する  | る   |
| を  |    |     |     |     |
| テイ |    |     |     |     |
| ケツ |    |     |     |     |
| する |    |     |     |     |

e  
キヨウキユウ

- |    |     |     |    |    |
|----|-----|-----|----|----|
| 5  | 4   | 3   | 2  | 1  |
| 物  | 彼女  | オン  | マン | 警察 |
| が  | の   | キユウ | シヨ | が  |
| 多  | 発   | ウ   | ン  | 真相 |
| く  | 言   | で   | が  | を  |
| キ  | で   | 暮   | ロ  | キユ |
| ユウ | 会   | らす  | ウ  | メイ |
| な  | 議   | 旧   | カ  | する |
| 部  | は   | 軍   | す  |    |
| 屋  | フ   | 人   |    |    |
|    | ン   |     |    |    |
|    | キユウ |     |    |    |
|    | した  |     |    |    |